

[ミリスマ]

Mil Suma

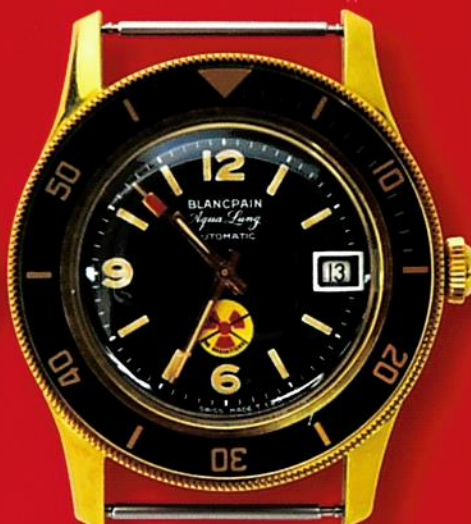
No.

9

2016 APR

WORLD M O

平成28年4月15日発行(通巻)
ワールド・ムック111



兵士たちの命をになう刻印

ミリタリーウォッチ

陸・空・海 自衛隊の

ミリメシ食べたか

ラスベガス・ショットショー速報

新・軍用装備大図鑑

最新フィールド情報

全国サバゲーフィールド&シューティングレンジ

Ingenuity

刻印がなければ 兵士たちの腕にいらなかった

軍は時間と時刻を知り、計る時計を必要としてきた。それが腕時計になった瞬間から時計と人間の距離が縮まった。文字どおりに密接になった。同時に人にとっての、時計の意義が変わった。もたらされた変化は大きく深いものであったが、目で見ることだけではできないぐいの変化だった。ただ1つ例外があった。ミリタリーウォッチだ。この時計だけが、人が時計という道具に対して、どのように向き合ってきたかを目で見えるかたちで伝えてくる。その手段が刻印だ。ミリタリーウォッチは軍が調達した腕時計であっても、使うのは個人単位。将兵1人ひとりだ。腕時計とはそういう道具だからだが、時計はあくまで政府の財産である。そこで軍は時計に刻印した。裏ぶたに刻印を施された時計は、使う者にとり身分証明になった。時計が時を計る以上の意味を持ったわけだ。刻印のある軍用時計に誇りが託されたり、語るべきストーリーが生まれてきたのは、時計に国や所属する軍、部隊の印、よりどころがあるからだ。裏ぶたに入る刻みほど精巧な装置がありうるだろうか。それがミリタリーウォッチの存在理由にもなっている。



Hack

WHAT IS MILITARY WATCH?

ミリタリーウォッチとは

正しい機能の製品が正しく生産され、
納入されるためのミルスペック
(ミリタリースペフィケーション)によって
生産された軍用時計。その証として
裏ぶたに文字やマークが刻印される。



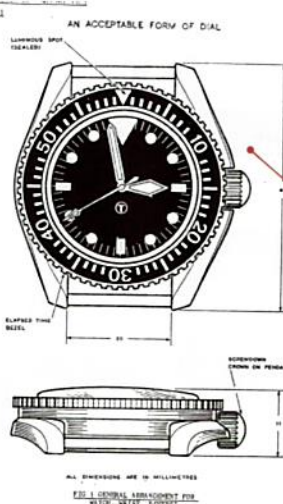
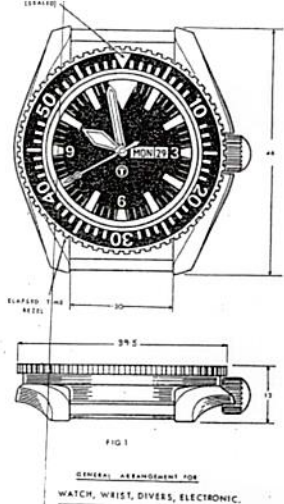


FIG. 3. GENERAL ARRANGEMENT FOR WRISTWATCH, WRIST

ディフェンス・スタンダード 66-4 に規定されたウオッチ・リスト・ダイバース。軍事管理コードは海軍0552、陸軍W10、空軍6BB。文字盤はつや消し、蛍光塗料の種類を表すT (トリチウム) の文字を入れる。デイト付きとデイトなしの両方のタイプがある。

イギリス軍のクロノグラフ・リストのディフェンス・スタンダード。ナビゲーション用に使用するクロノグラフ。軍管理コードは海軍0552、陸軍はナシ、空軍は6BB。文字盤はマット・ブラック仕上げで、時間表示は白とする。文字高1mmのTの字を白で囲んでも文字盤中央の上にプリントする。



Strap, Wrist Watch

イギリス国防省ディフェンス・スタンダード 66-47/Issue 1 による通称 NATO ベルト、ストラップ・リストウオッチの仕様書。ナイロンのあや織りで、色はアドミラル・グレイと細かく規定されている。ワンピース・ストラップとしては最も有名。グレイの他にブラックもある。

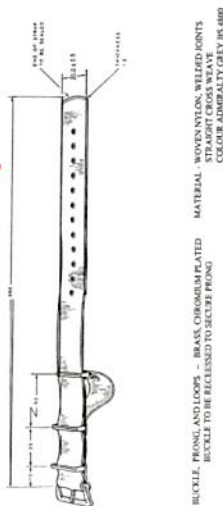
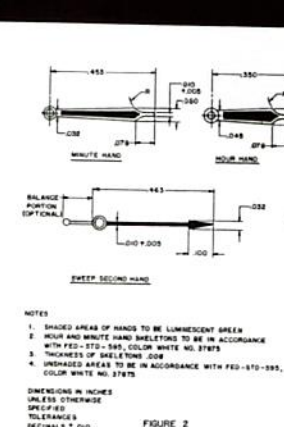
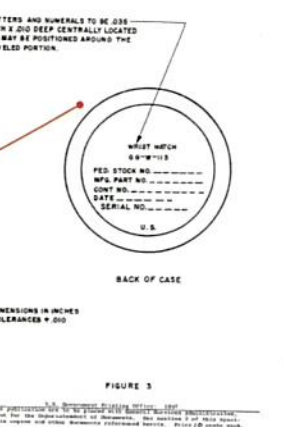


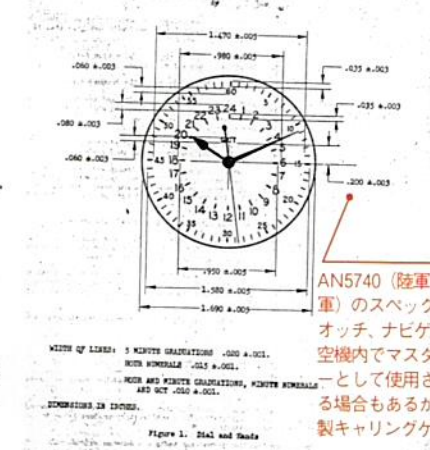
Fig. 1 Strap, Wrist Watch (Nylon)



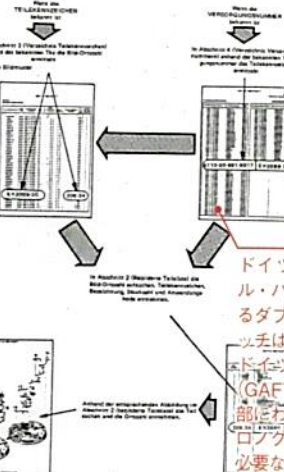
バックケースは文字の高さ、決められた幅により、すべての規定文字を刻印するように決められている。



ダイバースウオッチに欠かせなくなる回転ベゼル。頂点の12時の位置には数字ではなく正三角形を描くと規定されていた。



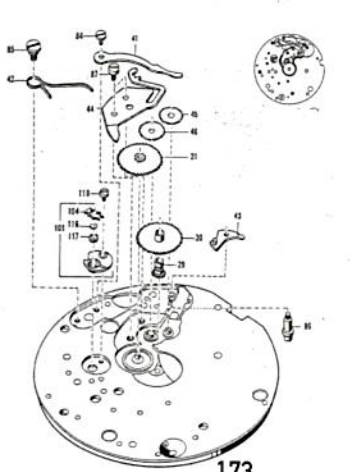
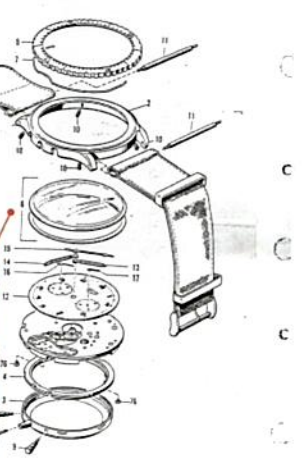
AN5740 (陸軍) AN-5740-W-108 (海軍) のスペックによって生産されたウオッチ、ナビゲーション・マスター・ダイバース・ウオッチ、空機内でマスター・ダイバース・ウオッチとして使用された、手持ちで使用する場合もあるが、ガタムジヤ社製の特製キャリングケースに納められた。



ドイツ軍のメカニカル・ハンドブックによるダブルストップウオッチは腕時計の仕様書、ドイツ空軍技術規則 (GAFT.O) により、細部はわかって、このクロノグラフを図解し、必要な指示がある。



このクロノグラフの管理については、部隊での使用状況を明確にするため、手入れ、管理、部隊での修理、大掛かりな修理、部品交換等オーバーホールについて詳細に記録をとるよう求めている。



ROLEX

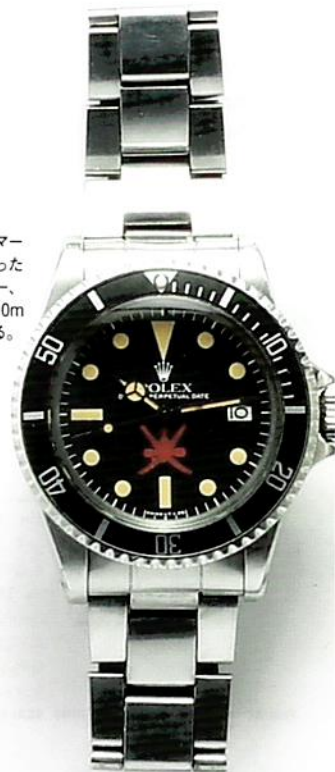


フランスの海底調査会社コメックス用の1220m防水のシードゥエラー。



旧ドイツ海軍。パネライのラジオミールと同じケースを採用した。

1970年代。オマーンの紋章が入ったシードゥエラー、Ref.1665。610m防水を保証する。



第1次大戦期のイギリス陸軍の一般用ポケット・ウォッチ。陶製文字盤。



1940年代。イギリス空軍が採用したオイスター・ロイヤル。耐衝撃性を備える。

1970年代にフランス海軍が採用したチュードルのサブマリナー。200m防水。



アラブ首長国連邦の紋章が入ったオイスター・パーベチュアル・デイト。

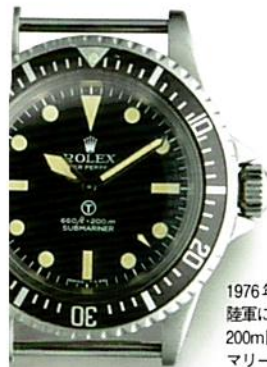


イギリス空軍。1940年代製のロレックス・オイスター・ロイヤル。直径30mmの小型。



MILITARY WATCH

ロレックス軍用時計



1976年イギリス
陸軍に支給された
200m防水のサブ
マリナー。①マ
ークも入る。



ペルー海軍。プ
ッシュボタンにねじ
込み式を採用した
1970年代後期の
コスモグラフ・デ
イトナ。



イギリス海軍ダイ
バーに支給された
200m防水のサブ
マリナー。



米海軍が1960
年代に採用した
チュードルのダイ
バーズ・ウォッ
チ。200m防水。



フランスのコメックス
が採用した200m防水
のサブマリナー。



アメリカの空
挺部隊が採用
したオイスタ
ー。高精度の
手巻き。



1970年代。GMTマ
スターの第2世代に
あたるRef.1675。ア
ラブ首長国連邦の紋
章が入る。



1970～90年代に
製造されたエアキ
ングのRef.5500。
バーレーンの紋章
が入っている。



スペイン軍。1950年
代。オイスター・パ
ーベチュアル・ター
ノグラフの初期モデ
ル、Ref.6202。



アラブ首長国連
邦の軍の紋章が
入ったオイスタ
ー・パーベチュ
アル・デイトジ
ヤスト。



1969年にアメリカ海
軍が採用したチュー
ドルの200m防水のダイ
バーズ・ウォッチ。



1940年代。イギリ
ス空軍兵士が使っ
た初期のオイスタ
ー・コマンダー。

ROLEX



記号ではなく
ROYAL AIR
FORCE UK
と刻印されて
いる点が珍し
い。1942年に
製造。



1939 年から
46年の管理コ
ードが記され、
AMは航空省、
6Bはパイロ
ット用を示す。



1945年にドイツのギュンター・ハイデン・グルー
プのアタックダイバーのエルンスト・ケラーが使用した。ロレックス・パネライ Cal.5513搭載。



G.S.IはGeneral Service
(一般用)を示す。Aの意
味は不明で数字はシリア
ルナンバー。



バックにはCOMEXの
刻印とシリアルナンバー。



裏ぶたに特別な刻
印はないが、軍の
貢献者に贈られた
ものと思われる。



政府や軍の高官に国王
から贈られたものだと言
われている。



M Nはフランス海軍＝
Marine Nationaleの略。
74は支給年を示している。

MILITARY WATCH ロレックス軍用時計



イギリス陸軍を示すW10のコードを付けている。矢じりも刻印されている。



ペルー空軍 Fuerza Aerea Peruの刻印。



イギリスの海軍コード0552と矢じりを刻印している。



ベトナム戦争中の1969年2月にNSWG (海軍特殊戦闘グループ) 2に支給された。



裏ぶたにROLEX COMEXの大きな刻印が刻まれている。



アメリカ軍の空挺部隊とはっきり半読できる刻印が入っている。



バックには一切の刻印が入っていない。



裏ぶたの刻印なし。



手書きでスペイン軍の文字が刻印されている。



刻印なし。1960年代のRef.1500。直径34mmのステンレススチール・ケース。



USNの文字が大きく刻印され、シリアルナンバーは入っていない。



直径28mmの小ぶりなケースで、手巻きムーブメントを搭載する。R.A.Fはイギリス空軍を示す。

USA

MILITARY WATCH

アメリカ軍

タバネス製の第1次世界大戦頃の通信部隊用。懐中時計から腕時計への移行期に作られたもの。

腕時計初期に作られた陸軍兵士用のウォルサム製。風防を保護するためにグリッドを備える。

ロンジン。米海軍のオーダーにより製造した17石のムーブメント搭載。

ロンジン・ウォームス。タイプA-11。17石のムーブメントを搭載し、リュウズを引くと秒針が止まり、押すと再スタートするバック機構付き。

ルクルト製のタイプA-11。4時位置のリュウズで回転ベゼルの秒針の位置に合わせ、経過時間を計る。

ウォルサム・デボリア防水時計。デボリア社製の防水ケースは性能が高く、多くの時計メーカーが採用。防塵、耐腐蝕性にも優れる。

エルジン・デボリア防水時計。防水ケースで有名なデボリア社のケースにエルジン製ムーブメントを搭載し、支給された。

ハミルトン、アメリカ海兵隊モデル987-A。17石ムーブメント、ステンレススチールケース、スクリュバック。

ベンラスのダイバー＆ナビゲーション・ウォッチ。タイプII、クラスA。ETA製の自動巻き、Cal.282Fを搭載。1978年製。

ベンラス・ダイバー＆ナビゲーション・ウォッチ。裏ぶたは一体型。ETA製ムーブメントを搭載した1974年製。

1970年代のベンラス・ダイバー＆ナビゲーション・ウォッチ。水深360m、高度10,500mまで使用可能。タイプ1。

1959年9月1日発行のMIL-W-22176に準拠したトールネック・レイヴル社製の自動巻きダイバーズ・ウォッチ。120m防水。

MIL-W-3818Aによって生産されたブローバの軍用時計。このスペックは、途中で改定され、スモールセコンドから中央3針になった。

ブローバ製ナビゲーション・ウォッチ、タイプA-11。1940年5月1日に標準支給品として採用された。裏ぶたはねじ込み式である。

アメリカ空軍用のクロノグラフ。24時間ダイヤルに赤い秒針、ダイヤルにはギャレットの刻印。

オメガ、アメリカ陸軍用にオメガにオーダーされたもの。

1970年にデビューした600m防水の「オメガ・シーマスター・プロ・プロフ」。飽和潜水用のプロ仕様。アメリカ海軍でも使用された。

エルジンのタイプA-11ナビゲーションバックウォッチ。テストしていたタイプA-10が中止になり1940年に制式採用された。

ウォルサム製ナビゲーション・ウォッチ、タイプA-17。ニッケルプレートでピッチ数が多いねじ込み式の裏ぶたを備える。非防水。

ブローバ製のA-15ナビゲーション・ウォッチ。2時と4時のリブウズで分と時表示を回転し、第2時間帯を表示する。

ウィットナー製のウィームス・タイプのA-11。セコンドセッティング陸軍航空隊用。

第2次大戦中に陸軍と陸軍航空隊用の戦車や航空機用に開発されたナビゲーション・ウォッチ。ハミルトン製。G.C.T.はグリニッジ標準時の意。

少数だけオーダーされたといわれるオメガ・シーマスターの海兵隊向け腕時計。

エルジンのタイプA-17。文字盤が白と黒に塗り分けられ視認性の効果を高めている。

ウォッチ、リストナビゲーション、ハミルトン製。文字盤が珍しいタイプでHAMILTONの下にG.S.の文字が入っている。

第2次世界大戦後に陸軍から独立した空軍向け、ゼニスが供給した手巻きクロノグラフ。

スイス・グリス・ミルンが採用した本来はDH（ドイツ陸軍）の文字が入ったドイツ軍の時計だった！

エルジンが米海軍の特殊部隊UDT（水中破壊部隊）用に開発した。リュウズカバーで防水300フィートを確保。

米海軍の一部使用。看護婦等に支給された小型のポケットウォッチ。

ハミルトン。GG-W-113で陸軍用に生産された時計。

ハミルトン製のナビゲーション・ウォッチ。AN-5740。12時間表示で文字盤を昼夜に色分けしている。

ハミルトン、ウォッチ、リストゼネラルパーパス。MIL-W-46374Bのシリーズは最も多く生産された。

1940年代のハミルトン製の海軍特殊部隊用ダイバーズ・ウォッチ。防水性能が高かった。

ポケットウォッチの両面にラグを付け、リストウォッチとして使用した。ムーブメントは17石のスイス製。

非常に珍しい文字盤といわれているエルジン製。文字盤に「米海軍所有」と記される。メーカー名は入っていない。

ハミルトン、アメリカ陸軍一般用。最も多く生産された腕時計のひとつだ。

ハミルトンの軍用時計。ダイヤルにプロペラとウイングマーク入り。

WWIIで、ドイツやイギリスのミリタリーウォッチを多く生産していたグリニのドイツ陸軍用。

ウォルサムタイプA-11ナビゲーション・ウォッチ。バック機能付き。文字盤内の赤いダイヤル文字が珍しい。

ポケットウォッチの小型ムーブメントを使用したリストウォッチ。兵隊や看護婦に支給された。

ハミルトン。白ダイヤルに海兵隊のマーク付き。

スイスの一流メーカーがアメリカの工兵部隊からの発注を受け製作。精度の高いポケットウォッチ。

MIL-W-6433Aで生産されたタイプA-17Aナビゲーションウォッチ。ブローバ製ブラックダイヤルで12時間表示の内側に24時間表示もされている。

ブローバのタイプA-11。バック機能付き。12時間の目盛りの内側に小さな24時間表示がある。

USA

MILITARY WATCH

アメリカ軍

ティン製の通信部隊用。U.S. ARMY ORDは米陸軍兵站部を意味する。OHの刻印は海外で生産されたもの。

ロンジン。刻印のU.S.N BUSHIPSはビューロー・オブ・シッピング（艦船局）を意味する。海軍用はUSN、海兵隊用はUSMCの刻印。

ロンジン・ウィムス、タイプA-11。裏ぶたの刻印は軍用であること詳細に語っている。

ウォルサム・デボリア防水時計。裏ぶたにはU.S.Aの文字とシリアルナンバーが刻印される。1917～19年製。

ルクルト製のタイプA-11。他のA-11とはタイプの異なる刻印になっている。

エルジン・デボリア防水時計。ケース全体がブラック塗装で文字盤は陶製。刻印はない。

ベンラス・ダイバー＆ナビゲーション・ウォッチ。特殊部隊が身元が分からないように裏蓋の刻印にはミルスベックはなく、シリアルナンバーのみ。

ブローバ製ナビゲーション・ウォッチ、タイプA-11。TYPE A-11の文字は1段目あるいは2段目に刻印される。

ベンラス・ダイバー＆ナビゲーション・ウォッチ。タイプI、クラスAの文字とミルスベックW-50717が刻印される。

ダイバーはキャレットになっているが、裏ぶたの刻印はグリーンになっている。その下にU.S.Aの刻印。

裏ぶたの中央に小さくU.S. ARMYの刻印、スクリューバック方式。

裏ぶたにはUSMCの刻印と、OFの略号は15～17石のムーブメントの時計で防水性能を示している。

合った場合には近くの軍施設に届けて下さい」という刻印が珍しい。マークは放射性蛍光塗料使用を示す。

ミルスベックは細かく入っている。24時間ダイアルとスチープ秒針は赤。

MIL-W-6433に準じたウォルサムのナビゲーション・ウォッチ。裏ぶたの内側にケースメーカーのスター・ウォッチ・ケース社の刻印が入る。

“オメガ・シーマスター・プロブルフ”。赤のボタンはダイバーベゼルの解除用。

裏ぶたには、指定されたすべての刻印が入っている。

ブローバ製のタイプA-15ナビゲーション・ウォッチの使用期間は比較的短かった。

ウイットナーのウィームス・タイプのA-11。裏ぶたの刻印は海軍の士官に海軍航空隊から贈られたもの。

刻印が見られない、第2次世界大戦中のハミルトン製のAN5740ナビゲーション・ウォッチ。Aは陸軍、Nは航空隊、共同開発の時計だ。

US MARINEの文字が海兵隊用であることを示している「オメガ・シーマスター」。文字盤にもUS MARINEの文字が。

エルジン。ウォッチリスト、セコンドセッティング、ナビゲーションバックの刻印がある。

珍しい刻印で、空軍の中尉がウイングマークと個人名を刻印したゼニス製クロノグラフ。

珍しい独逸と米海軍のナンバーが同居し、独逸用だったが米軍が採用したことを示す。ヨーロッパ戦線において時計が不足したアメリカがスイスのメーカーから接収した。

朝鮮戦争からベトナム戦争の中頃まで生産された。裏ぶたにはType1 USの刻印が入る。1970年製。

ハミルトン製のAN5740。本来は4本のスプリングが組み込まれ、時計を中央で支持し、衝撃を吸収するケースに納めて使用するナビゲーションウォッチである。

特殊竜頭カバーは防水性能を一段とアップさせた。モデル539の16石ムーブメント使用。刻印はUSNとシリアルナンバーが入っている。

アメリカ軍兵站部の刻印とUSNの文字が刻印された珍しいもの。

裏ぶたの中央と、そのまわりに沿ってスペックが刻印されている。0045はNATOのナンバー。

ハミルトン製のタイプA-15。ウォッチで、刻印は米海軍兵站部による調達を示している。

エルジン製で、文字盤に「米海軍所有」と記され、裏ぶたには刻印が一印あるが、シリアルナンバー等が入っていないのはテストサンプルかもしれない。

裏ぶたには大きな文字でUSとSIGNAL CORPSの刻印。

ORD.DEPT.は兵站局を、ODは15~17石のムーブメントを搭載することを示す。

MIL-W-46374BのBは三番目は改定されたスペックで生産されたということ。このスペックは1975年5月に発行された。

ウォルサムタイプA-11。裏ぶたに刻印がないのは修正の時に取り替えられたものである。

時計不足の米軍がグリーンにあったドイツ軍の時計を接収してOHの刻印でアメリカ軍のものとした。

裏ぶたにはOD、15~17石のムーブメントを使用している刻印が。

裏ぶたには一切の刻印無し。

修理時に裏ぶたが取り替えられたと思われる。

このブローバのタイプA-17Aは、特に防水性能がアップしてピッチ数の多いねじ込み式の裏ぶたが使用されている。スペックがぎっしり刻印されている。

CORPS OF ENGINEERSはアメリカ陸軍工兵隊を示す。大きな刻印が印象的である。

MILITARY WATCH

アメリカ軍



旧ソ連とアメリカの冷戦末期当時のアメリカ軍汎用時計。マラン社の機軸式。1985年製。



ストックアー&イエル社のサンディ590。1985年製のプラスチック側で修理不可のいわゆる使い捨て時計。



ストックアー&イエル社のサンディ184だが文字盤から国名や製造者名の情報を意図的に排除してある。



前出のストックアー&イエル社サンディ590と同じ。イタリア陸軍の第3軍のインシグニアが入っている。



蛍光マーカのトレイサーを開発したマイクロテック社によるアメリカ軍の汎用時計である。



文字盤に多国籍軍による「砂漠の嵐」の名前が入っている。作戦名が文字盤にある珍しい時計。



前出のストックアー&イエル社サンディ590と同じ。文字盤には放射線マークと三重水素の記号H3だけがある。



スイスのアルタス社のロゴマーク入りアメリカ軍汎用時計。同社は後にグリーンに吸収される。



ロゴマークの位置が異なるだけで、あとは隣の時計と同じアルタス社によるアメリカ軍汎用時計。



アルタス社のロゴマークの下にグリーン名が入る。コンパクトを名乗る黒文字盤軍用時計。



文字盤にあるマランは時計会社でありブランド名ではない。興味深いのはこの時計の裏面だ。



ストックアー&イエル社のサンディ490。文字盤には国名や製造者名の情報を意図的に表示していない。



ストックアー&イエル社のデジタルウォッチ。ナビ用のMIL-W-50717Aを後継する位置づけだった。



2016年現在のアメリカ軍汎用時計である。回転ベゼル付きで経過時間が読めてナビに使える。



スチール製である以外は右の現用時計に酷似する。どちらもナビゲーションウォッチである。



文字盤には指示マークと針に使われている蛍光物質の放射線マークとH3だけが入っている。



ベトナム戦争時代の使い捨て時計の代名詞がこのMIL-W-46374ゼロベースによる時計。



左と同じくベトナム戦争時代の汎用時計である。時計ケースはプラスチックで修理不可。



タイムックスによって1982年に製造された。文字盤の印字はH3と放射線マークのみ。



MIL-W-46374 (1964年)ゼロベースから始まり現在はこのMIL-PRF-46374Gによる時計になる。



ベトナム戦争時代を代表する24時間表示時計がグリニンのエアーマンである。



暗算で1200を足す必要がある時刻でも文字盤から直接読めた。針の形の違いに注目。



アメリカを代表する時計会社だったハミルトン社が製造したアメリカ軍用の汎用時計。



隣の時計のほぼ2ヵ月後に同じくハミルトンによって製造された汎用時計。



同じくハミルトンによって製造された汎用時計。製造年も同じだが、ミルスペックが違う。



文字盤から国名、製造者名を意図的に排除してあるが、マラソン社が1991年に製造した汎用時計である。



現用アメリカ軍の MIL-PRF-46374G による汎用時計。メーカーにより時計の「顔」には変化が出る。



チュチマのクロノグラフ用ブッシュピースは、時計ケースと一体化しているのが特徴だ。



文字盤には放射線マークと三重水素の記号H3だけが入り、あとは「消毒」されたステライルな時計だ。



上と同じ時計だが、デイト表示、秒針の針先が赤い。マラソン社名がある、U.S. GOVERNMENTの表示で身許を明かした時計になっている。

アメリカ海兵隊マーク入りのマラソン社の300m防水のダイバースウォッチ。自動巻き。



カナダのメイプルリーフ入りのマラソン社のダイバースウォッチ。クォーツ。



イスラエル軍エリートパイロット部隊であるドゥグデヴァン仕様のナビゲーターウォッチ。マラソン社製。



サーチ&レスキューの任務用として開発され、海兵隊に支給された300m防水の自動巻き時計。マラソン社製。

MILITARY WATCH

アメリカ軍



ステンレススチールの時計ケースにGG-W-113のミルスペック番号と製造年、NATO番号、USの文字が入る。



一般市販品と同一モデル。MIL-W-48374Eのタイプ3は電池内蔵のクォーツ時計で修理はできない。



文字盤は「消毒」された状態で、一切の情報はなく、裏ぶたにはミルスペック番号、国名も入っている。



時計本体は2番目サンディ590と同一。イタリア軍向けのはずだが刻印情報はアメリカ軍と同一のままで。



MIL-W-46374E版から蛍光物質をガラス管に封入する方法が採用されている。同E版で使い捨てのタイプと規定された時計。



1989年3月に製造とある。メーカー名はスイスのギャレット社である。



時計の蛍光に使われた放射性物質は廃棄物の安全基準を満たしており、廃棄可能との表示がある。



1986年製造のステンレススチール製のフィールドウォッチ。機械式。



隣の時計とまったく同じだが、刻印は一切入っていない。機械式。



「消毒」のために情報がステイールされたのではなく、単に刻印がないだけと推定される。



裏ぶたにはギャレットの名前がある。湾岸戦争が迫り、大量に時計が必要だった時代の産物である。



1993年のMIL-W-48374F版によるフィールドウォッチ。タイプ1の機械式時計で、修理可能である。



NSNのみでスペック番号はないが、1980年のMIL-W-87967にしたがって製作されたデジタルウォッチである。



ナビゲーター、デイト付きのMIL-PRF-46374Gによる時計。



文字盤のADANAGとはカナダの逆つり。考案者はカナダの時計会社マラソン社2代目社長。



2012年のマラソン社製で、同社のウェブサイトの住所が刻印されている。これも歴史の一部だ。



ベラス社の1970年製プラスチック時計。裏ぶたにNON-MAINTAINABLEの文字が刻まれている。



ウエストクロック社の1968年製。MIL-W-46374ゼロベースであるのは確かだが記載はない。



このMIL-W-46374B版からの規定に従いDISPOSE RAD WASTEの文字が入っている。



当ページに3個、隣ページには4個の同スペックながら「顔」が異なる現用軍用時計がある。



184 正式な軍用時計ではないが、航空兵であるエアーマンには自費で買手がいたほどだった。



24時間時計は第2次大戦時代からあるが、ベトナム戦争時代といえはこのエアーマンになる。



時計ケースはスチール製。MIL-W-46374Bの刻印がある。日付は1983年5月。ハミルトンの名がある。



左と同じくMIL-W-46374Bによる時計。製造年は同じ1983年の7月。ハミルトンの名がある。



ハミルトン名ではなく同社のコード番号が入る。ミルスペックはGG-W-113による1983年製の時計。



「消毒」された
ステイプル状態
なのでメーカー
名はないが、マ
ラソン社のケー
ジコード38776
が入っている。



マイクロテック
社によるMIL-
PRF-46374G
の時計。これは
タイプIIIクラス
1なので修理可
能な時計だ。



西ドイツ時
代のチュチ
マ製パイロ
ットクロノ
グラフであ
る。裏ぶた
にアメリカ
軍所有物の
刻印が入る。



文字盤は「消毒」
されてメーカー名
はない。裏ぶたに
はメーカー名の代
わりにウェブサイ
トの住所が刻印さ
れている。



文字盤上にはマラソ
ン社の名前が入っ
ているが、裏ぶたに
はメーカー名はな
くケー
ジコードの38776
のみである。

マラソン社のジーサー
ダイバーズ。時計ケース
の外周にはUS Marine
Corpsと同軍のモットー
Semper Fidelisが入る。



時計ケース本体径は46.6mm。
316Lステンレススチール
を削り出している。英語と
フランス語が並記されてい
る。2012年製。



MIL-PRF-463
74GのなかでTy
pe III, class Iに
該当する時計。
アナログ、クオ
ーツムーブメン
ト、回転ベゼル
付きの修理可
能な時計である。



ディーサーとメーカーが呼ぶ時計は、
軍用方式ではウォッチ、リスト、ダ
イブと刻印されている。マラソンの
ウェブサイトの刻印がある。

ITALY



1939年頃に製造され、1941年のエジプト・アレキサンドリア湾でのイタリア海軍特殊潜水部隊によるイギリス艦隊襲撃に使用されたといわれるラジオミール・パネライ。



第2次世界大戦後に作られたイタリア海軍用のルミノール・パネライ。文字盤に記されたマリナ・ミリタレはイタリア海軍を意味する。ルミノールは1949年1月にパネライが特許を取得した、トリチウムを原料とする化合物の蛍光塗料を示す。



1950年代半ばにエジプト海軍の依頼で製造されたラジオミール・パネライのプロトタイプ。従来のラジオミールよりも大型のケースで、5分間隔のマーカーを付けた回転ベゼルが特徴だ。

第2次世界大戦後に作られたルミノール・パネライのプロトタイプで、通常のパネライとの大きな違いは5分間隔のマーカーがあるベゼルが付いている点だ。



パネライは時計だけでなく多くの軍用機器を製造したが、これは第2次世界大戦中のイタリア海軍特殊工作隊員用の水中コンパス。ケースは耐磁構造をもつスチール製で、プレキシガラスの塊をくりぬいた直径59mmのドーム状のカバーガラスが付き、中には特殊な液体が入っている。

MILITARY WATCH イタリア軍

LUMINOR PANERAI ITALIAN NAVY SPECIAL FORCE

ルミノール・パネライといえ
ばレバー・ロック式リュウズ
が特徴だが、これはパネライ
が1955年に特許を取得して
いる。実際には第2次世界大
戦中に開発されていた。200m
防水という当時としては驚異
的な防水性を実現した。

第2次世界大戦中にイタリア海軍が採用
した。腕に装着するブルドン式水深計（水
圧の変化を感じて深さを計測する方
式）で水深30mまで計測が可能だ。ケー
スはスチール製でドーム状のプレキシガ
ラスに覆われ、腕に装着するためのスト
ラップがついている。

第2次世界大戦中は蛍光塗料に放射性物
質のラジウムが用いられていた。ラジオ
ミール・パネライはこのラジウムから名
付けられている。スチールのブロック
から作られた、ラグが一体となったケー
スの頑強な作りも特徴だ。

パネライは19世紀後半にイタリア・フィレンツェで創
業した小さな時計店に始まる。やがて時計の修理や改
造、さらには精密機器の製造を行なうようになり、オフ
ィチーネ・パネライ（パネライ製作所）と名乗るようにな
った。第1次世界大戦の頃にはイタリア海軍に銃の
照準器や魚雷の信管用時限装置など、さまざまな精密
機器を納入していたが、イタリア海軍潜水部隊のため
に潜水用時計の開発に着手したのは1930年代半ばのこ
と。1938年にイタリア海軍に納入された最初の時計は、
直径47mmという大型のケースで、ケースとムーブメント
はパネライと関係が深かったロレックスが特別に製
作したものだった。この時計は文字盤の下に蛍光塗料
“ラジオミール・チューブ”を置き、ラジオミールと名
づけられた。第2次世界大戦中には、パネライを象徴す
るレバーロック式のリュウズが誕生した。1950年代に
はエジプト海軍にも時計を納入している。

BRITISH

MILITARY WATCH

イギリス軍



1984年にセイコーが初めてイギリス空軍用に納入したクォーツ・クロノグラフ。



イギリス空軍用のクロノグラフ。CWCが納入した。



自動巻きETA2824-2を搭載したCWCの海軍用ダイバーズ・ウォッチ。



ヘルベティアのポケットウォッチを腕時計に改造したもの。



1990年代に採用されたセイコーのクォーツ・クロノグラフの第2世代。



スイスのギャレット社製ダイバーズ・ウォッチ。海軍用。トリチウムのTマークが入っている。



文字盤にW10の陸軍コードが入った珍しいもの。445-5890は一般用時針を示す。



海軍パイロット用で、アメリカのハミルトン製。太い針で視認性が高い。



ロンジン、イギリス海軍。H.SはHydrographic Survey (水位測量の意)を意味する海軍の分類コード。



ロンジン、大型のアルミニウム製ケースに16石のムーブメントを搭載した海軍用。



スイスのピアース社製クロノグラフ。軍用時針に特有なブラックの文字盤にテレメーター目盛りが入る。クロノグラフ秒針はレッド。



パイロット・ウォッチで知られるIWCの“マークXI”。1950年代。



戦後につくられたインビクタのニセモノ。矢じりが下を向いている。



1940年代に陸軍に納入されたスイスのバーテックス社製。



ジャガー・ルクルト製の陸軍一般用。Pは蛍光塗料のプロメチウムを示す。



188 スイスのレマニア製の空軍用ワンプッシュ・クロノグラフ。



1950年代に海軍パイロットに支給されたレマニア製。Cal.2220搭載。



陸軍の一般用で、スイスのエベル製の小さなモデル。長短針には蛍光塗料。



ロンジン製のセンターセコンド・タイプで、24時表示もある。



フランスのローラン・ドダネ製ダイバーウォッチ。

1980年代初期からCWCは海軍にクォーツ時計を納入した。ムーブメントはETA製。



耐衝撃性、耐磁性、防水性を備えたロールス製。一般陸軍兵士用。



陸軍用スモールセコンドの時計。スイスのモーリス社製。10 1/2ラインの手巻きムーブメントを搭載。



CWCが1990年代半ばから海軍ボート部隊に納入したクォーツ。ETA製ムーブメント。



1950年代のオメガ製の空軍用。二重構造のケースで耐磁性、耐腐性に優れる。



左のオメガと同様だが、軍用としては白文字盤が珍しい。



レマニア、17石ムーブメントを使用した海軍に支給された。



オメガの白文字盤に線路スタイルの分表示が載る。レイルウェイパターンと呼ばれ、ボケットウォッチ時代から受け継がれている。



第2次世界大戦中のスイスのシーマ製の陸軍一般兵士用。



ウィットナー製の珍しいオートマチック。第2次大戦中のもの。



合同作戦司令部のパラシュート部隊用。ロンジン製でCal.12.68を搭載。



オーストラリア空軍用にハミルトンが生産した時計。



第2次大戦時代のロンジン製。白文字盤にたっぷり蛍光塗料を塗った数字が入る。細く長い秒針が1/5秒単位の細かい目盛りの上を動く。



ケースの形状がユニークなアメリカのプローパー製。陸軍一般兵士用。



1950～60年代のプローパー製で米軍用のA-17と同様の仕様となっている。イギリス軍仕様のブロードアローが入っている。



プローパーがイギリス軍用に生産した時計。ブロードアローが入っている。



第2次大戦中に海軍パイロット用に支給されたプローパー製クロノグラフ。



1950年代のレマニア製海軍用クロノグラフ。INCABLOCは耐衝撃装置内蔵を意味する。



高精度で知られたハミルトン製で、1960年代の空軍パイロット用。Cal.75を搭載。



文字盤が白で変則だがこれもIWC製マークXIパイロット・ウォッチ。Cal.89を搭載。



水平に並んだサブダイヤルを持つタイプ20と同じスタイル。特徴はクロノグラフを作動させるボタンが、リュウズに組み込まれている点である。



1950年代のレマニアによるイギリス海軍用パイロットウォッチ。ワンプッシュボタン式のクロノグラフ。



第2次世界大戦中の海軍パイロット用クロノグラフ。レマニア製。



レマニアの海軍用腕時計。トリチウムのTマークが入る。



1850年から1970年代後半まで続いたイギリスの時計メーカー、スミス製の空軍用。



イギリス陸軍がナビゲーションウォッチとして1940年代に使った時計。秒針がまだスモールセコンドタイプ。



ガラス用プロテクター付き。時計にかぶせてあって、はね上げることはできない。格子の隙間から時計を見る。

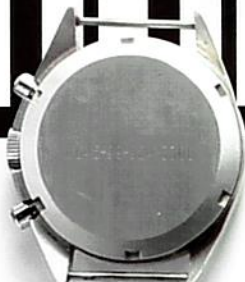
BRITISH

MILITARY WATCH

イギリス軍



裏ぶたには時計のレファレンス768-3056とNATO時計共通ナンバー6645が入っている。



刻印はNATOコードのみで空軍コード6Bは入っていない。



1980年代からCWCが海軍に納入し、300m防水を保証する。コードは0552。



この軍用時計の裏ぶたには大きなブロードアローがある。



1997年に空軍に支給された。第1世代よりもケース径が大きく、仕様も変更された。



NATOのストックナンバーと機能コードと矢印を刻印。



文字盤は新しいW10で裏ぶたにはW.W.W.が刻印されている。



イギリス航空空軍 (AM) の文字と第2次大戦時にクロノグラフに割り当てられた管理コード6E/357が刻まれている。



0522は1950年代以降に採用された海軍の管理コードで、924はクロノグラフを示す。



海軍用時計は防水性が要件であることからHSのコードが付けられた。



裏ぶたはCOSDと補給品番号、シリアルナンバーが入っている。



イギリス空軍は1960年代にこの刻印がある時計を爆撃機のパイロットに使わせた。



頻出するWWWはイギリスが第2次大戦時代に導入した軍用時計管理コード。



シリアル番号前のAは、パーテックス社に振られた第2次大戦時代の管理コード。



WWWはWaterproof Wrist Watchの略で、イギリス軍の一般用時計に振られたコード。



修理時に入れ替わったと思われる刻印なしの裏ぶた。



0552はイギリス海軍を示し、924はパイロット、ナビゲータ用を示す。



裏ぶたには矢じりとATP (アーミータイムピース) の刻印。



肉眼では半読不能なほど小さく、ブロードアローの刻印と235の数字が入っている。

裏ぶたのブロードアローが横向きに刻印された珍しいタイプ。



刻印は↑とTHの文字のみ。意味は不明。



ATPはArmy Time Pieceの略で、陸軍用の一般兵士に供給された。



裏ぶたにはメーカーのスペックとブロードアローのみ。



肉太のブロードアローとNATOの軍用時計コード6645を刻印する。

肉太矢印とNATOコードを持つ。左にもある6Bはイギリス空軍を示す。Cal.30T2を搭載する。



裏ぶたにもブロードアローとイギリス海軍を示す0552の管理コードが入る。



表の文字盤と同じくブロードアローと49の数字が入っている。刻印がバフかけのようにたいへんに浅い。



ブラックPVD加工を施したステンレスチール・ケースで直径は45mm。



直径38mmで通常の36mmよりも大型。ケースは真鍮にクロムメッキではなくSS。シリアルの前Pはシーマ、エテルナの管理コード。



1940年以降に導入されたWWWの管理記号が入る。オメガと同じコードのYが振られている。



ムーブメントを衝撃から守るため、構造を改良した通称“ツナ缶”ケース。



裏ぶたにはNATOのコードとRAAFの刻印がある。



時計管理コードからすれば防水性が期待できる時計のはずだが、裏ぶたは簡単なはめ込み式のままだ。



大きな↑とW.W.W.の刻印。一体成形のケース。



この時計を実際に使ったのはイギリス軍だが、1956年3月にアメリカ軍が改定したミルスベックMIL-W-3818Aの刻印が入る。



大きな↑とW.W.W.の刻印。



刻印のH.S.9は海軍用のクロノグラフを示す。



レマニアのワンブッシュボタン式クロノグラフ。イギリス海軍がHSコードの次に0552の管理コードを導入。



裏ぶたが二重構造になり、防水、防塵、耐振、耐磁性に優れる。



直径36mmのステンレスチール・ケースで二重の裏ぶたを備える。



リュウズにクロノグラフ用ボタンを組み込む方法は古くからあるが、1940年にも存在していたことが分かる。



左端のレマニアと同じくイギリス海軍用。0552はNATO管理コード時代にも引き継がれた。



上と直前の時計と同じレマニア。ただしこちらの刻印の方が歴史的には古い。



0552以下のコードが2つ刻印されている。



IWCのマークXII同様に軟鉄製のインナーケースを備え、耐磁性に優れる。



シリアルマークの前のFはロジンとレコードの管理コード。



第1次大戦時代に使われた。時計ケースがポケットウォッチから腕時計への移行期のものである。

JAPAN



航空機のコックピットクロック。パイロットはこれにヒモを通して首から下げた。文字盤には「時」の文字。



セイコー・プレジジョン。精工舎製でムーブメント15石。大型のサイズはパイロットにとって視認性の確保に役立った。



時計メーカーは不明。ムーブメントにはシリアルナンバーのみ。裏ぶたには「秒時計三型」NO187号の刻印入り。



大型航空時計ウィットナー。これはロンジン・ウィットナー製。視認性が高く重用された。裏には「空兵、第970号」の文字が刻印されている。



SEIKOSHAの文字が入った7石のポケットウォッチ。数字が大きく視認性を確保していた。裏ぶたには「陸軍、3136」が刻印されている。



精工舎製のポケットウォッチ。ニッケル製のケース。裏ぶたには「秒時計一型2番NO」と刻印されている。



海上自衛隊が使用したセイコーのストップウォッチ。裏ぶたには海上自衛隊と420069が刻印されている。



レオニダスの陸軍用ポケットウォッチ。センターセコンド付き。裏ぶたの刻印は「八九式活動写真銃改二NO.1603」いわゆるガンカメラ用と推定される。



幅広の牛革ベルトは海軍航空時計に装着したもの。この時計は長いベルトで大腿部に巻きつけても使用した。大腿部への装着は操縦を妨げないという利点があり、イギリス軍やドイツ軍も大型時計はこうした使用方法をとっていた。

MILITARY WATCH

日本軍

海軍航空時計のケース。ムーブメントが入っていない状態でケースの形状がよくわかる。



シチズン社製。同社が男性用腕時計を完成させたのが1931年とされており、それ以後の製品であることは確か。10型2針式の手巻きムーブメントを使っている。風防ガード付き。



セイコー。ニッケルクロームに裏ぶたはステンレススチール。パリス環式ベルト装着用シングルケース。7石の手巻き式。



ムーブメントを入れる前のケース。



セイコー。日本海軍官給用の軍用時計。7石10型ムーブメント使用。



ムーブメントを入れる前のケース。



セイコー。ニッケルクロームの二重ケースの10石ムーブメントで手巻き。裏ぶたにはイカリのマーク。文字盤に桜マークがある。



ムーブメントを入れる前のケース。



エクシオール社のクロノグラフ。精度の高い時計として知られている。裏には航空自衛隊と桜の花の刻印入り。

日本軍の時計ベルトは、非常に種類が多く、ポケットウォッチを除いては、兵士に支給する腕時計は非常に少なかった。ただし、将官たちは指定の腕時計を自分で購入するように指示されていた。"陸海軍人用"として多くのベルトが"忠勇" "勝利"等の商標がつけられて販売されていた。ベルトには腕時計と方位磁石が装着できるようになっていた。

GERMAN

ドイツのユンハンス製の西ドイツ空軍パイロット用クロノグラフ。



アルピナ592のドイツ陸軍の時計。

東ドイツ軍のダイバーズウォッチ。



黒文字盤、スモールセコンドはナチス・ドイツ政権下の陸軍勤務用に共通する。



左の時計と同じく第2次世界大戦中の陸軍用。



ハーゲンクロイツを記したグリニッシュ製。詳細は不明。珍しい文字盤。



ルウラ。東ドイツ時代のコンバットスライマー&ダイバーウォッチとして支給された腕時計。ムーブメントはクォーツ。



ハンハルト製のクロノグラフで第2次世界大戦後に西ドイツ空軍が採用。

ヒトラーの肖像と「ドイツ帝国再興」の文字が入ったプロパガンダ用。



スイスの17石のムーブメントを使ったムッソリーニのPR用時計。



1940年代のユンハンス製空軍用クロノグラフ。コインエッジの回転ベゼルを備える。



スイスのドイツ製。ナチスドイツ時代のドイツ国防軍のマークが記される。



一般軍人用の時計、ドクサは防水時計等も多く生産した。



スイスのグリニッシュ製で、防水性を備え、裏ぶたはステンレススチール製。

第2次世界大戦中にチュチマ・グラスヒュッテが製造した空軍用。



ドイツのアークトス社のNATO仕様のクロノグラフ。ETA製ムーブメント。

ドイツ海軍に納入されたハンハルト・クロノグラフ。KM (ドイツ海軍) のプリント。数字は蛍光ラジウム。精度が高い時計だった。



MILITARY WATCH

ドイツ軍

ランゲ&ゾーネが生産したBウオッチ（ナビゲーション）の初期のタイプ。時間合わせは4時の位置にあるプッシュボタンを押してからリュウズで行なう方式。

1927年に創業したドイツの手巻きクロノグラフでこれはWWⅡ後に西独軍に納入されたもの。

精度の高い時計をつくることで有名なミネルバのパイロット用クロノグラフ。帝国航空省に納入された。

文字盤に記されたKMはKRIEGSMARINEの時で海軍を意味する。

1953年に発表されたロレックスの“エクスプローラー”。

ドイツ海軍用。ブランパンダイバースウオッチ、フィティファズムス。自動巻きレバー式ムーブメント。3Hはトリチウムの蛍光ペイントを示す。

レコード軍用時計。他の通常の軍用時計よりやや太ぶりのケースが使用されている。

シルバーナ製。陸軍用は通常17石ムーブメント、耐衝撃装置を装備していた。

1980年代に西ドイツ空軍に納入されたチュチマの軍用クロノグラフ。

ランゲ&ゾーネの生産したナビゲーションウオッチ。視認性を高めるために、分と秒の文字を大きく表示した。作戦行動に有用だった。

ドイツのグラスヒュッテにあった時計メーカーGUBのナビゲーションウオッチ。大型のこの時計は長い革ベルトで大股股につけて使用された。

戦後、ハンハルトに次いで西ドイツ空軍に採用されたジンのクロノグラフ。

1980年代に海軍が採用した2000m防水のIWC製ボルシェ・デザイン“オーシャン”。

ドイツ海軍用のクロノグラフ。テレメーター目盛りを文字盤に配したハンハルト製。

西ドイツ空軍パイロット用。ホイヤー製で手巻きのVALJOUX4733を搭載する。

1980年代のボルシェ・デザインのパイロット・クロノグラフ。レマニアのCal.5100搭載。

ロンジンがヒトラー政権下のドイツ陸軍に納入した一般用。

ドイツ海軍のダイバースウオッチ。ブランパン フィティファズムスの初期のモデルで、自動巻き17石、1960年製。ドイツのパラクーダ社が納品した。

IWC製ボルシェ・デザインのミリタリー・クロノグラフのNATO仕様。

GERMAN

裏ぶたにはNATO番号と連邦所有を示すBUNDESEIGENTUMの文字が刻まれている。



裏ぶたに刻印なし。



裏ぶたに刻印なし。



裏ぶたに刻印なし。



刻印のDはDeutsche(制式時計の意)の略。そのあとにシリアルナンバーがつく。



裏ぶたには軍の使用を示す文字が刻印されている。



文字盤と裏ぶたに記された950は独軍調達局から時計に与えられる納入ナンバー。



NATOの管理コードが刻印されている。



ドイツ国防軍を示すDとシリアルナンバー、後にHがつけられる。



陸軍用の時計のケースはクロムメッキだが、裏ぶたはステンレススチールが標準だった。



この時計も左と同様で、DとHの間には個別のシリアルナンバーが刻まれる。



第2次大戦中の陸軍用の裏ぶたには、制式時計を示すDと陸軍を示すHが刻まれた。



第2次世界大戦後にはドイツ軍の軍事技術・調達局BWBが時計の供給を管理する。



シリアル番号のみが刻印されている。ケースはたいへんに頑丈なつくり。



裏ぶたには東ドイツ官給品の文字が刻印されている。視認性は高かったと言われている。ラバーストラップ付き。



DとHの間にシリアル番号をはさむ。旧ドイツ陸軍時計に典型的な刻印。



ステンレススチールの裏ぶたに国防軍の紋章を刻んでいる。



12-121-5208はハンハルト製の手巻きクロノグラフに与えられたNATOコード。



裏ぶたには海軍支給のマークとシリアルナンバー、国有品の文字が刻印されている。



アークトスはドイツのブランドだが、時計はスイス製。10気圧防水を備える。



MILITARY WATCH

ドイツ軍



17石で衝撃装置付きの手巻きクロノグラフ・ムーブメントを搭載。



裏ぶたには防水性能の刻印とRLM (帝国航空省) の略印が刻印されている。

白文字盤は海軍で採用された。裏ぶたにはシリアルナンバーが刻まれる。



裏ぶたにはドイツ陸軍を示すDHが刻印されるはずだが、この時計はDとシリアルナンバーしか入っていない。

1950年代にドイツ軍の軍事技術・調達局BWBに納入された。



ダイバーズウォッチとして広く使用された時計で6645-12-171-4162の刻印が入っている。1976年製。国産品を示すBUNDの刻印もある。



裏ぶたのD (Dienststelle) H (Heeh) の間にシリアルナンバーが入る。標準的なドイツのミリタリーウォッチのコードである。



裏ぶたにはシリアルナンバー。ムーブメントは全メッキ。裏ぶたには製造ナンバー、組立ナンバー等が刻印されている。



NATOナンバー、6645-12-46-3374を刻印したジンのモデル155。



6645-12-194-8642はチューチマ製のクロノグラフであることを示している。



裏ぶたにはシリアルナンバーが刻印され、中面には生産に関するスペックが刻印されている。



裏ぶたにはNATOコードの他にBundes Wehrの刻印が入っている。



ハンハルトは精度の高いクロノグラフの開発で海軍から信頼を得ていた。防水性能も高い。



チタニウム製ケースで2000m防水という1980年代では驚異的な防水性を保証した。



レマニア製のCal.5100を搭載する



ドイツ陸軍を示すDとHの間にシリアルナンバーが刻印されている。



Bund 12-129-8654の刻印。ブランパンのダイバーズウォッチ。写真の文字盤の他にブルーとオレンジもあった。



ミリタリークロノグラフ7177とMOD.DER.INT.の刻印が入る。

SOVIET UNION



MILITARY WATCH

旧ソ連軍



世界中にブームを 巻き起こした ソビエトのミリタリーウォッチ

1990年に突然ソ連のミリタリーウォッチのブームが世界中をかけまわった。カラフルで、レトロチックなデザインのマークや兵器等がプリントされた文字盤は、それまで人々がソ連に感じていた固くて規律的というイメージはなかった。

1960年代のミリタリーウォッチは赤い星がプリントされているだけだったが、80年代後半からモチーフやスローガン、そして歴史上の人物がプリントされるようになった。

なぜ、突然カラフルなミリタリーウォッチが世界中で話題になったのか。一説によるとイタリアの商社が、イタリア人特有のデザインセンスで、このミリタリーウォッチをビジネスとして行けると感じ、最初は物々交換というかたちでイタリアの高級革製靴と交換してビジネスとして始まったといわれている。

イタリアでは、まずポストークを仕入れ、それに新しいタイプの革ベルトをつけ、木製の箱に入れてミリタリーウォッチのプレミアムモデルのような感じにして、世界中で販売した。ポストークの成功に続き、ソ連からは今まで知られていなかった時計メーカーのブランドが続々と販売された。

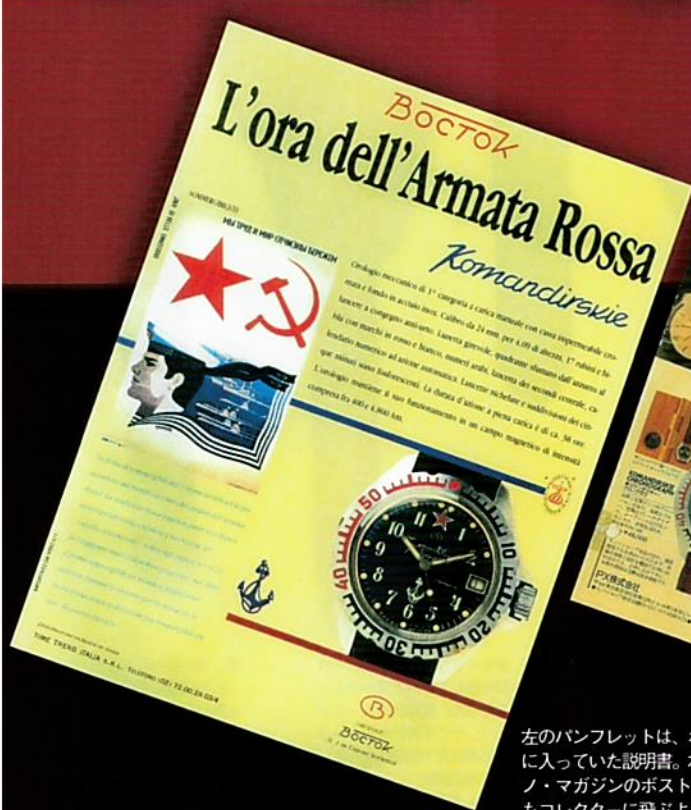
主なブランドは“POLJOT”（飛行の意味）、“SLAVA”（栄誉の意味）、“RAKETA”（ロケットの意味）、“TSCHEIKA”（カモメの意味）、“POBEDA”（勝利の意味）、その他多数のブランドがあった。

最初に登場した“BOCTOK”／ポストーク（東方の意味）ブランドはソビエト連邦のひとつであるタタールスタン共和国のチストボル市にあるチストボル時計工場で生産された。ロシア最大のブランドBOCTOKとして成功。1961年からソビエト軍の制式時計計測機器となっている。創立60周年の年には降下部隊、戦車部隊、海軍、陸軍、機動部隊用として生産され、1960年代後半にはソビエト全軍の将校用として制式装備された。

ポストークのミリタリーウォッチは手巻式で、17石、セントラルセコンド、蛍光式ハンドとインデックスを持ち、回転ベゼル、ねじ込み式ステンレスバック、ねじ込み式リュウズ。

ポストーク軍用時計にはダイアルの下部に“3AKA3 MO CCOP”（Made in CCCP）と刻印され、購入時にはIDカードが、軍のユニフォーム姿でなければならなかった。

この時計が一般に販売されるようになり、一般用は3AKA3 MO CCOP（オーダー、国防省、ソビエト）をはずし、CД ЕПАНО В CCC（Made in CCCP）と刻印されている。



左のパンフレットは、ポストーク発売時にBOXに入っていた説明書。右は1990年7月16日のモノ・マガジンのポストーク発売の広告、日本でもコレクターに飛ぶように売れたという。



WATCH BAND



ポケットウォッチや腕時計に使用されたガード。第1次大戦では、激しい動きから時計を守るためにいろいろなかたちのガードがつくられ販売された。グリュエンやウオルサムメーカーは、最初からガードの付いた腕時計を販売していた。ただほとんどがベゼルにはめ込むタイプであったため、ガラスが割れたり、脱落することもあった。第2次大戦時には、時計の強度も増し、ガードは使用されなくなった。

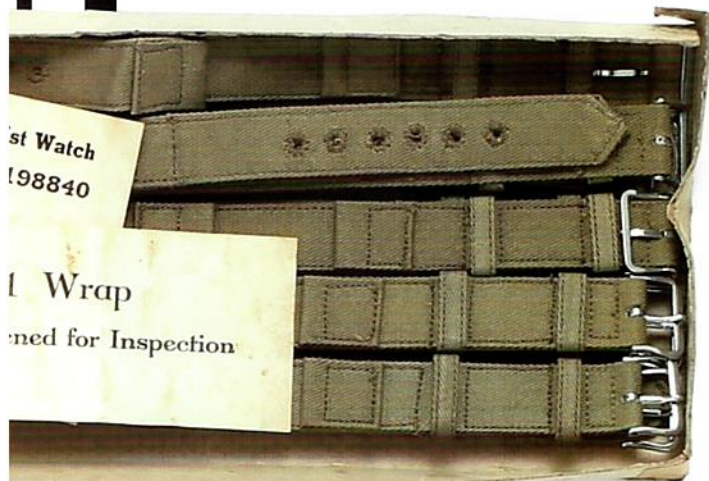


ポーランド戦争で始めて腕時計が使用されてから第1次大戦にかけて、ポケットウォッチとリストウォッチが本格的に使用されるようになった。ポケットからいちいち取り出して時刻を確認するのは戦場において不便なことだった。しかし、腕時計はまだ高価なものだった。腕時計のムーブメントはポケットウォッチのムーブメントを小型化したものが主流だった。そこで時計メーカーはまず、小さなポケットウォッチを選び、そこから徐々に改良を加えて耐震装置や耐磁性能を付け加えるなどして腕の上で簡便に時を刻む腕時計に改良していった。その前段階として、ポケットウォッチを腕につけるための工夫が、いろいろなメーカーで行なわれた。その最も成功したかたちがレザー・カップ・ストラップと呼ばれた丸いケースの中にポケットウォッチを包み込んで文字盤だけ顔をだすというものだった。これらは戦場の兵士たちや、一般の人々にも好評だった。

第2次大戦からベトナム戦争初頭に使用された腕時計のストラップ。強度に対する研究はずっと続けられ新しいストラップが登場した。ツーピースとワンピースの両方のストラップが支給され続けた。

MILITARY WATCH

ウォッチベルト



第2次大戦の初頭にはツーピースのストラップが使用されることが多かったが、海軍や海兵隊では潮の影響で革がすぐに傷むということがわかり、あや織りの布製ベルトが支給され、続いて、ナイロン製のワンピース・セフティー・ストラップが支給された。陸軍でも強度を増した布製のワンピース・ストラップを使用した。



第2次大戦中に最も多く使用された、ツーピースのあや織りベルト。撥水性の布はタフで激しい使用にも時計を保持してくれた。通常5本を1つにまとめて油紙にくるみ、円筒のボール紙のケースに入れて、修理キットのボックスと共に各部隊に支給された。



写真中央に4本のNATOタイプのストラップがある。イギリス軍でのスペック名はDEF STAN 66-47/2にあたる。これがG10などと呼ばれるのは、時計師連盟の際に記入する軍の用紙がG1098だから、略してG10。素材はナイロン、色はアドミラルティグレイBS4800がスペック指定にあるもの。時計を簡単に、確実に保持しつつ、適度な遊びがあるので装着感が窮屈ではない。しかも構造はシンプルで安価につくれる。だからこそ民生品に多数のパリエーションを生んだ。カムフラージュ柄のバーストラップ4本を含め、ここにあるものはすべてワンピース式。時計ラグに引き通して使う。



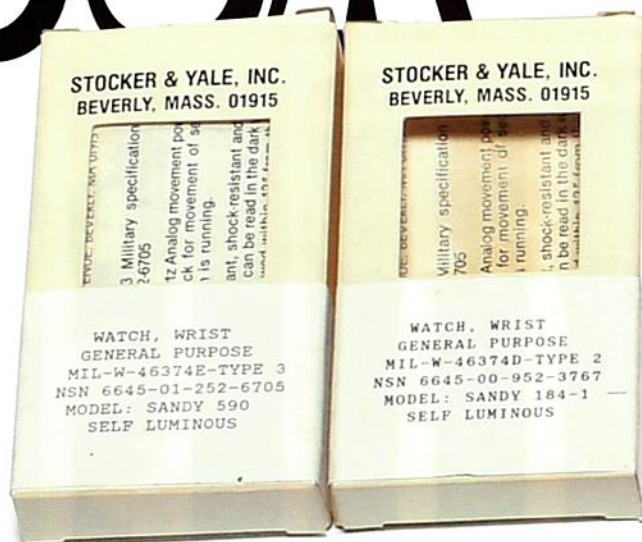
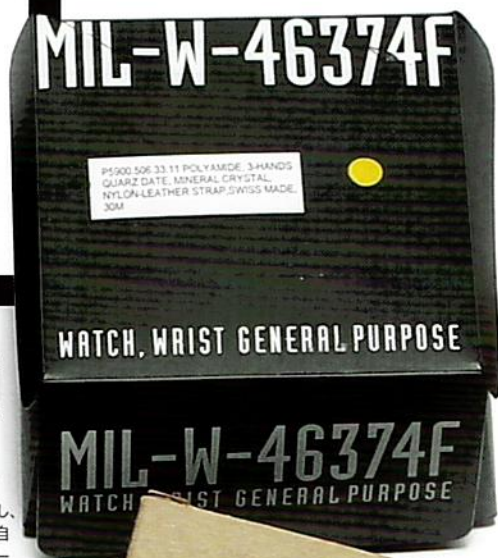
ベトナム戦争時代MIL-S-4683Bの「ミルスベック、ストラップ・リスト・インストールメント」により腕時計だけでなく、コンパス、深度計等の機器に装着するための織り地のナイロン製ストラップの生産に関する規定を発表した。ストラップの色、長さ、バックル等に関するさまざまな規定により、厳しいテストが義務づけられ

た。このナイロン製のストラップは、ベトナム戦争時に支給されたノン・メンテナンスブルのプラスチックケースのウエストクロック、ペンラス、タイメックス等に装着され、熱帯でも汗に強く兵士たちに好評だった。バックルの針を通す穴の部分は装着した時に不快感がないように焼いてスムーズ感をだすように規定された。

WATCH BOX

MILITARY WATCH ウオッチボックス

小型のガラスチューブにトリチウムガスを充填し、放射性物質を放出することなく長年にわたって自己発光を続けるトレーサーシステムのミリタリーウオッチ、トレーサーの一般販売用ボックス。中身はもちろんミルスベック入りの時計だ。



MIL-W-46374Eで生産されたアメリカ軍用のデジタルウオッチ。大きな時計表示の文字は視認性が高く好評だった。白いペーパーでつくられた、簡単なボックスだった。

マラソン社のウオッチ、リスト、ナビゲーションのボックス。時計はクッションペーパーに包まれてオペレーション・インストラクションとともに納められている。マラソンは多くのミリタリーウオッチを生産しているが、ボックスはほとんど同じタイプだ。



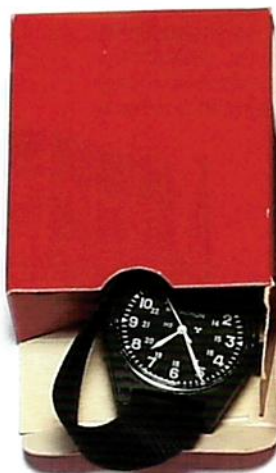
MIL-W-64374Cで生産されたストックカー&イェール社のサンディ184のボックス。白いボール紙に包まれた時計が、白のボックスに入っている。ミリタリーウオッチのボックスとしては目新しいスタイルだった。



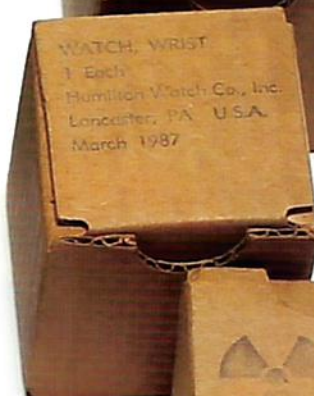
ソビエトのミリタリーウォッチ、ポストークのプラスチックケース。プラスチックの箱にダミーの紙ベルトが付けられた時計が納められている。仕様、説明書、保証書が一体となったうすい紙の説明書が入っている。尚、紙のボックスも使用されている例もあった。



腕時計と同じサイズのコンパスが入ったボール紙のボックス。コンパスはポストークと同じ会社で生産された。うすい紙に包まれてボックスに納められている。



イラク戦争時代にスイスのギャレット社が生産して陸軍に納入されたデザートストーム時計本体とベルトは黒。時計の箱だけは赤の紙箱だった。



MIL-W-48374Bのハミルトン・ウォッチ・リスト・ゼネラルパーパスが入っている。ボール紙でつくられたボックス。放射線のマークがついている。時計はクッションペーパーに包まれ、中にDO NOT ATTEMPT TO REPAIR UNSERVICEABLE WATCHESの注意書きが入っている。